特定非営利活動法人 Global Bridge Network
令和 4 年（2022 年）度　事業活動報告書

1.　活動期間：2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

2.　事業活動の要旨

本年度もコロナ禍の影響はあったが、ウガンダにおける以下の 2 つの事業「生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業」（JICA 草の根協力支援型）、並びにムベンデ県・ルサリラ地区にて開始した「環境教育と廃棄物の収集・リサイクルを通した環境美化事業」（大成建設助成）は継続して実施することが出来た。対象地域であるムベンデ県、ワキソ県において、エボラ出血熱のパンデミックにより 2022 年 11 月から 2023 年 1 月末までロックダウンが発令され、その期間は多少遅れが生じたものの、概ね予定通り活動を実施することが出来た。また 2022 年 8 月に GBN の大西・横田がウガンダへ渡航し 3 年ぶりに現地視察をすることができた。

日本国内における国際交流事業としては、横浜市の小学校からの要請により、SDGs の授業の一環として出前講座を行った。また、大学生 2 名が当団体のインターンとして参加し、クラウドファンディングにて集めた資金にて「布ナプキンスタートアップ事業」を開始し、ウガンダに渡航時しスラム地域の学校視察とワークショップを実施した。

2022 年度も当団体の HP、Facebook、ブログ、動画等を活用し、国際支援の活動報告と異文化理解の促進、他団体とのネットワークの構築等を目指し情報発信した。2021 年度より開始したウェブサイト（当団体のＨＰ）の構築作業は 2022 年度も継続し、次年度には公開予定である。

2023 年度は、2024 年 4 月終了予定の「生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業」のラップアップ、次期プロジェクトの検討を視野に入れつつ活動を継続する。本年度も現地視察のためウガンダへ渡航し、事業の進捗確認、さらなる活動展開に向けて現地でのネットワーキングなどを予定している。

3.　実施した事業内容

主な事業は「国際支援事業」、「国際交流促進事業」の 2 本柱であり、以下にその活動内容の詳細を述べる。

① 国際支援事業

１）「生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業」（JICA 草の根協力支援型）

■　実施期間：2021 年 11 月 1 日～2024 年 4 月 30 日（2.5 年間）
■　実施場所：ウガンダ共和国（ムベンデ県、ワキソ県、ブタンバラ県）
■　受益者：4,310 名（生徒 3,000 名、教員 60 名、地域住民 1,200 名、Happy-Pad プロモーシ

ョンセンターでのトレーニング受講者 50 名）（2.5 年間）

■ 事業内容：

事業地では女子生徒が貧困のため生理用品を所持できず、生理期間中に通学出来なくなるという問題が発生している。洗面所やトイレなどの学校施設の不備、また生理や衛生管理に関する知識不足、不衛生な古着等をナプキンの代替品として使用することで感染症になったり、衣服に漏れて男子生徒にからかわれることが原因で退学してしまうなど、女子生徒の教育環境には様々な問題がある。

2022 年度は、各対象校（計 30 校）のトイレ、更衣室、水回りなどの学校設備の修繕・整備を行った。各学校にて設立した月経衛生管理（MHM）クラブのメンバーが設備の清掃・管理を担っており、プロジェクトチームの定期的なモニタリングにて維持状況を確認している。

また学校教員が月経衛生管理の指導ができるように、各学校で教員対象のトレーニングを実施した。多くの学校で月経時の衛生管理、性教育、ジェンダー啓発の授業が時間割に組み込まれ、その結果、女子生徒が月経中に学校内で適切に対処できるようになり、月経をからかう男子生徒が減少し、女子生徒をサポートする生徒が増えたと多くの学校から報告が来ている。

保護者や地域住民の協力を得るために、各対象校が属する 30 地域の住民（保護者）計 1,218 名を対象に会合を行った。さらに広範囲にわたる地域住民への啓発として、月経時の衛生管理や女子生徒の教育サポートについてラジオトークショーやスポットメッセージ（ラジオ CM）を放送した。リスナーからは、発信した情報へのポジティブなコメントや要望が寄せられた。

また、全対象校にて生理用布ナプキン作成のトレーニングを実施し、ムベンデ県（生徒 298 名、教員 36 名、コミュニティ 3 名）ワキソ県（生徒 592 名、教員 65 名、コミュニティ 73 名）ブタンバラ県（生徒 139 名、教員 32 名、コミュニティ 58 名）が参加した。トレーニングを受講したいという他の生徒に対してミシンや材料が足りないという報告が多くの学校からあがった。

ワキソ県の Happy-Pad プロモーションセンターにおいて、布ナプキン作成トレーニング、布ナプキンの生産、販売が難航したため規模を縮小し、2023 年 2 月から新たにブタンバラ県においても Happy-Pad プロモーションセンターを開設し、同様の活動を 2 箇所で実施することになった。

MHM クラブの生徒・教員が互いに学び合うための「School to school learning visit」を 2023 年 3 月にブタンバラ県にて実施、ワキソ県、ムベンデ県では次年度に実施する。同じく 3 月にプロジェクト活動の進捗・課題を共有し、地方政府や学校関係者間の意見交換を目的とした Mid-term レビュー会合をムベンデ県、ブタンバラ県にて実施した。ワキソ県においては、次年度に実施する。

2022 年 8 月の GBN の現地訪問時に、現地パートナー団体（SORAK、VOTU）と共に保健省、教育スポーツ省、並びに地方政府機関（Nansana Municipality、ブタンバラ県政府）を訪問した。本事業の紹介および進捗報告を行い、政府関係者より本事業への賛同を得ることができた。

月経時の衛生管理に関する Online Session を 2023 年 1 月に 2 回（各 2 時間）実施し 25 団

体からの参加者があった。2023 年度にも月経に関する障害者支援、生理に関する逸話など様々なテーマで Online Session を実施する予定である。

本事業の目標達成のための指標である①生理期間中登校することへの不安感を持つ女子生徒の減少、②女子生徒の生理が原因による欠席率並びに退学率の減少については、教員からのヒアリングにより、一定程度成果が出ている。2023 年度は対象校における布ナプキン生産を持続する仕組みの構築、プロモーションセンターにおける布ナプキンの安定的な生産・販売、品質の保証、布ナプキントレーニングの普及など、これらの課題への取り組みを協力団体である、SORAK、並びに VOTU、ステークホルダーと行っていく。

（活動詳細：https://globalbridgenetwork.org/mhmgirlseducation/）

生徒が MHM を学ぶ様子	MHM クラブメンバーの活動の様子	GBN メンバーのウガンダ視察
男性教員が布ナプキン作成トレーニングを実施	ラジオトークショーの実施	対象校間の学び合い交流会の実施
ブタンバラ県のプロモーションセンターでのトレーニング	中間報告会	Zoom でのオンラインセッション

2）「布ナプキンスタートアップ事業」（クラウドファンディング）

■ 実施期間：2022 年 8 月～2023 年 3 月

■ 実施場所：ウガンダ共和国（カンパラ市、ナグル教区、ナグル初等学校）

■ 受益者：生徒 30 名、並びに保護者 10 名

■ 事業内容：

ウガンダ現地の VLF（ビジョナリーレディ財団）と協力し、カンパラ市のナグル教区にあるナグル初等学校にて 2022 年 8 月 17 日に寄贈した 3 台のミシン（GBN のインターンが集めた支援金で購入）を用いて、30 名の女子生徒を対象に裁縫トレーニングを実施した。まずはミシンの使用法や、材料の使い方に慣れることを目的として始めた結果、月経衛生管理クラブの女子生徒たちは簡単なものを縫製したり、破れた衣類などを補修したりすることができるようになった。現在、裁縫の基礎知識やミシンの使用方法を身につけた生徒たちは、布ナプキンの作成方法を学んでいる。また、トレーニングは毎週金曜に実施しているが、週に 2 日程放課後に自主練習も行っている。生徒の保護者を対象にしたトレーニングも週末に実施しており、技術の習得を通し経済的に自立する手助けをすることで地域の女性の地位向上を目指している。

（詳細はこちらを参照：https://globalbridgenetwork.org/mhmstartup/）

送られたミシンと生徒

縫製トレーニングの様子

作成した布ナプキン

3）「環境教育と廃棄物の収集・リサイクルを通した環境美化事業」（大成建設自然・歴史環境基金の助成）

■ 実施期間：2021 年 11 月 1 日～2022 年 12 月 31 日

■ 実施場所：ウガンダ共和国（ムベンデ県・ルサリラ地区）

■ 受益者：地域住民 1,000 世帯、約 5，000 名

■ 事業内容：

事業地であるルサリラ地区では住民の無秩序なごみ投棄による土壌汚染、人間・家畜が利用する水源汚染による健康被害などの環境汚染が広がっていたため、本事業では以下を目標に活動を実施した。「住民が適切な廃棄物の処理と環境改善についての知識を習得し、リサイクルできるごみを分別・利活用し、さらにその販売益を通して廃棄物処理が継続されることにより、対象地区の環境が改善され、持続的に美化されること」である。

本事業では、廃棄物の管理方法や分別、清潔で安全な環境維持の重要性について地域住民を教育・啓発するために環境教育ラジオトークショーおよびラジオコマーシャルを継続的に放送した。ごみ箱を5箇所に設置し、地域住民にごみの分別を徹底させ安全に処理すると共に、地域の清掃などを通して環境美化活動を実施した。さらに廃棄物の不適切な投棄を監視するため、地域の指導者と住民から結成した「環境保全グループ」により、住民への啓発および美化活動を継続した。また、廃棄物の投棄を規制する条例を制定し、不法投棄に罰則を設けたことで、対象地区の環境美化を維持できるようになった。

事業による主な成果は以下の通りである。

- 地域住民が安全な廃棄物処理方法やごみの活用方法などの知識を身に付けた。
- ごみを分別し、農家用肥料やプラスチック原料として再利用するなど適切な処理を実践できた。
- プラスチックなどの資源を回収・販売により収入増加に繋がった。
- 分別した有機廃棄物を活用している農家の土壌肥沃度が改善した。
- ごみの処理方法が改善し、また環境美化活動により地域の環境状況が改善した。

活動開始前の状況	現在の状況
幹線道路にある市場裏にためられたごみの山	ごみの撤去後に草を再生し、キオスクが設置された
事業開始前の Zifa olaba 道路の状況	清掃活動を通してきれいになった場所にはバナナなどを販売する露店が設置されている
Kulubyas 精肉店の裏に設置した「ごみ投棄禁止」の看板	現在は草が再生している。

住民や地域の指導者もこれまで以上にごみ処理方法に気を配るようになり、活動前はごみの廃棄場所となっていたエリアは現在、露店やキオスクなどが設置できるようになった。対象地域の環境が大幅に改善され、現在も清潔に保たれていることから、この事業は目標を達成できたといえる。

（事業完了報告書はこちら：https://drive.google.com/file/d/181NfjSOfJYX-Vt4_qgRMYlmFQv-xo0qK/view）

(4) パキスタンにおける女性の生理の問題に関する事業の検討

女性問題や生理の現状に高い関心を持っているパキスタン出身のマワラさんがGBNのメンバ

一となったことから、ウガンダでの「生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業」を参考に、類似した事業をパキスタンにて実施するための検討を始めた。具体的には、現地にてカウンターパートとなりうる団体との意見交換、事業提案書の作成、資金調達方策などの話し合いを重ね、現在も検討中である。

② 国際交流促進事業

1） ウェブサイトの改訂作業

JICA 主催の「ICT を活用した NGO 能力強化研修」の支援を受け、Word press を利用した新しいウェブサイトの構築作業を 2021 年度より開始し、毎月約 1 回の頻度で専門家の指導を受けながら作業を進めた。2022 年度には日本語版のウェブサイトを完成することができた。2023 年度 6 月末までに英語版のウェブサイトも作成し、2023 年度には新 HP を公開する予定である。なお、2022 年 2 月 4 日（土）14 時～16 時に開催された第 4 回 NGO-JICA ラウンドテーブル＠よこはま（ICT）（オンライン開催）に参加し、同研修の成果発表、また他団体との意見交換を行った。

2） 情報発信

ウェブサイト、Facebook、ブログ、Syncable（寄附サイト）、YouTube 等を活用し。現地の状況や活動報告レポートなどを原則日本語・英語の両方で掲載した。当団体の活動を知っていただき、支援者や会員を増やすことを目指したが、入会までに至っておらず、引き続き募集している。

3） インターンの受け入れ・学生の探究学習への協力

2021 年度、名城大学附属高等学校の国際クラスで「課題探究」を行っていた 2-3 年生数名より、「生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業（ウガンダ共和国）」事業に関する質問・相談を受けたのをきっかけに、当時のメンバーで同高校を卒業し 2022 年から大学生になった 2 名が 2022 年 4 月～2022 年 11 月まで GBN でインターンを行った。インターンの活動としては、動画の編集、翻訳、ブログの執筆等に加え、ウガンダの学校で「布ナプキンスタートアップ事業」をするためのクラウドファンディングを行った。ここで集めた資金は、上述の現地団体 VLF（Visinary Lady Fundation）が支援しているスラム地域のナグル初等学校において布ナプキン作りのミシンや布などの材料を調達するためであり、多くの方のご支援により目標額を達成することができた。（クラウドファンディング詳細：https://readyfor.jp/projects/thankyousupport_uganda）

インターンの2名は、代表の大西、横田とともに2022年8月にウガンダに渡航し、最初の1週間はGBNの活動「生理で学校にいけなくなる女子学生の教育環境改善事業」のモニタリングに同行、その後ナグル初等学校を訪問して、布ナプキン作成のミシンや資材を手渡した。さらに、名城大学附属高等学校の取り組みとして作成した布ナプキン数百枚を同校の女子生徒に寄贈した。寄贈の際には、名城大学附属高等学校の国際クラスの生徒をオンラインで繋ぎ、ナグル初等学校の生徒と交流を行った。「布ナプキンスタートアップ事業」の詳細は上述の通り。

（インターンブログ：http://globalbridgenetwork-jp.blogspot.com/search/label/%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%83%B3）

４）　横浜市の小学校での出前授業

横浜市立の小学校５年生を対象に出前授業（2023 年 1 月16日13:40-15:15）を実施した。SDGsを扱う授業の取り組みとして女子生徒の一人が GBN の活動「生理で学校に行けなくなる女の子」に関心をもち、話を聞いてみたいと先生を通じて当団体に連絡が来た。

授業では、GBNの団体紹介とアフリカ・ウガンダの紹介、「生理が原因で学校に行けなくなる女の子」の現状と我々の取り組みについて、できるだけ現地の学校や生徒の様子が伝わるように写真やビデオを用いて説明した。

また、グループディスカッションの時間を設け、「生理用品が買えない」、「生理についての知識がない」「生理について相談できない」等の現地の女子生徒が直面している課題についてどんな解決策が考えられるかを話し合ってもらった。

今回は女子生徒の生理の問題と教育というテーマを主に扱ったが、課題の解決のためには貧困、水の問題、学校のトイレや更衣室の設備、悪しき慣習をなくすことなど、様々な問題に包括的に取り組む必要があるということを理解してくれた生徒が居たことが良かった。担任の先生からは「今回の事を機に男子生徒にも生理について知る・考えるいい機会になりました！」との感想が寄せられた。

（詳細の報告書：https://drive.google.com/file/d/1AU6ru7gUnDwd2VAjvsoCHghum73X2VBm/view）

法人名：　NPO法人Global Bridge Network

貸借対照表

2023 年 3 月 31 日 現在

（単位：円）

科　目	金　額		
Ⅰ 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,569,341		
流動資産合計		**1,569,341**	
2. 固定資産			
固定資産合計		**0**	
資産合計			**1,569,341**
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
流動負債合計		**0**	
2. 固定負債			
固定負債合計		**0**	
負債合計			**0**
Ⅲ 正味財産の部			
前期繰越正味財産		906,688	
当期正味財産増減額		662,653	
正味財産合計			**1,569,341**
負債及び正味財産合計			**1,569,341**